

I 実践

1 本校の人権教育の目標

○人権尊重の精神を養い、民主的な人間関係を育成する。

・自分の好き嫌いとらわれないで、誰に対しても公平・公正に接しようとする生活態度を育てる。

小学部：誰とでも仲良くする生活態度を育成する。

中学部・高等部：誰に対しても公正公平に振る舞う生活態度を育成する。

・地域社会との交流への支援を図る。

2 実践及び成果

(1) 児童・生徒への取り組み

ア 小学部での取り組み

本校では、自他の良さに気づき、互いに認め合いながら温かな気持ちで学校生活を送ることができることを目指している。そのために、温かな言葉掛けの試みや思いやりの心を育むことを意識した取り組みを行ってきた。また、教科・領域に合わせた日常生活の指導や生活単元学習を通して、あいさつや他者に対する意識、おもいやりの心を育てるようにしている。校内では、あいさつや感謝の言葉かけを教師が児童に働きかけたり、児童と教師、児童同士の間での「あいさつ運動」や「ありがとう活動」を重視している。対外的な活動では、学校間交流、居住地校交流など、他の学校の同学年の友達と交流する機会を設けている。このことは、本校の児童にとって、他者と交流する機会を得、社会性を高めるよい機会となっている。本年度も、中里小学校(低学年)・油縄子小学校(中学年)の交流会活動を行った。交流することで、お互いを認め合い、自己肯定感が高められたり、社会の中での他者を意識した自分に気づいたりする機会になった。また、公共の乗り物の乗車マナーを指導するバス教室(中学年)をバス会社のご厚意により行った。バスの中で、安全に座って、静かに過ごすことなど社会生活の中で大切なマナーを学んだ。



<中里小学校との交流会>



<油縄子小学校との交流会>



<バス教室>

イ 中学部での取り組み

生活単元学習では、「職業」について学び、地域の事業所の方を達人として招いてその技を教わったり、実店舗での見学や体験をしたりして学んだことを生かして、食品製造班や美容班、木工班、写真班、洗車班、販売班に分かれての校内実習を行い、段階的に学習をすることができた。校内実習では、達人から教えてもらった技を保護者に見てもらうこともでき、生徒たちは、楽しみながらも意欲的に活動することができた。また、入社式での高等部の進路指導主事の話や高等部生徒による応援パフォーマンスを通して、働くことへの関心を高めるとともに目上の人に対する畏敬の念をもつことができた。これらの学習から得た達成感や、一緒に働いた友達や教えてくれた事業所の方への感謝の気持ちは、将来の自分の職業観にもつながった。

総合的な学習の時間では、本校に隣接している多賀中学校との交流会に参加した。多賀中生と一緒にスポーツやゲームをするうちに、徐々に打ち解け、最後には一緒にダンスを踊り、お互いに一体感を得ることができた。「わたしのまちの学校です。わたしのまちが学校です。」のスローガンのもと、学校内外を問わず、学習の場を設定することで、生徒の自己肯定感や情操を育むことができた。

また、道徳の授業では、達人からのビデオレターの視聴、調理場の巨大しゃもじ体験、配膳員さんのお話、いじめ防止メッセージの紹介などの体験型の授業を行い、本校の人権教育の柱である「挨拶・感謝・協働」について考えたり感じたりすることができた。



<道徳の授業>



<さわやかマナーアップキャンペーン>
ウ 高等部での取り組み

<校内実習－入社式>

<多賀中との交流会>

月1回のペースで行われている道徳の時間。各学習グループごとにそれぞれ授業を工夫して行っている。その中で高等部全体の活動として、「みんなのためにできること」と題して、校舎周辺の清掃活動に取り組んだ。季節柄、たくさんの落ち葉や周辺のゴミを学年ごとの分担に従って清掃した。落ち葉の多さに驚き、掃き取ることで次第に綺麗に清掃されていくことに、生徒たちは協力することの大切さや、終了後の爽快感・達成感を感じ取ることができた。何気ない活動で地域の方々から感謝される喜びも実感した。

また、日立交響楽団の演奏会を鑑賞する機会を設定した。終盤では児童・生徒に指揮者の役割が与えられ、自ら名乗り出て自分の指揮で楽団員が演奏した。楽器演奏は難しくても、指揮することで演奏が行われることに自分の存在というものの大きさを体感し自己肯定感にもつながったのではないだろうか。

スポーツ祭で活用する応援旗、縦割り4班に分かれて作成した。他学年との協働作業で取り組み、温かな雰囲気の中各班ともその象徴となるような立派な応援旗を作成することができた。生徒の道徳的心情や感性を耕す機会を、今後も設定していきたい。



<歩道の清掃>

<H響との交流(生徒の指揮で演奏)>

<スポーツ祭応援旗作り>

(2) 学校・教職員の取り組み

ア 本校の人権教育目標を受け、以下の項目について全職員で共通理解を図った。

①学級目標の設定 ②あいさつの奨励 ③ありがとうの推進

イ 学校公開

「わたしたちのまちの学校」として、市立の良さを生かし、良さを伸ばしていく取り組みと、「わたしのまちが学校」として、日立市内の教育資源を最大限に活用する取り組みの中で外部の方々とのコミュニケーションと交流により、相互理解を図った。

ウ 保護者との連携

保護者との個別面談(5月と9月と2月)や夏休みの家庭訪問のほかに、必要に応じて家庭と連絡を取り合い、児童・生徒の実態や進路希望などについての共通理解を図ることで個に応じた指導に努めている。

エ 人権コーナーの設置

「おもいでひろば」として職員室前に設置している。修学旅行や作業学習、校外学習、キャリアトレーニングなど、各学部の行事の写真を掲示している。学校訪問の方々だけでなく、児童生徒も見えており、仲良くする態度・公正公平な態度を育成する上で効果的である。

II 成果と今後の課題

○交流及び共同学習は、多くの人々と触れ合うよい機会であった。今後は、これらの活動を通して得られたものを、授業計画や学校生活の中に生かしていく工夫をしたい。

○外部講師を迎えた研修会の実施の他に、小中高での実践報告会などを企画実施し、共通理解と研修をさらに深めるようにしたい。